

推進地域用（都県用）

「総合的な学習の時間」モデル事業中間報告書

（推進地域名 山 口 県）

I. 地域の概要（平成15年4月現在）

菊川地域（モデル校数：小学校3校、中学校1校、高等学校等1校）

II. 各県における「総合的な学習の時間」の現状

1. 県として「総合的な学習の時間」の改善、充実を図るねらい

平成14年度の学習指導要領の改訂において創設された総合的な学習の時間は、「①自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。」「②学び方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の（在り方）生き方を考えることができるようにすること。」をねらいとして、「確かな学力」を身に付け、「生きる力」をはぐくむための重要な学習の時間として位置付けられるものと考えるとともに、この時間の学習の充実が、今後の教育の方向性を左右すると言っても過言ではないととらえている。

そこで、各学校の独自性と活性化を引き出し、学習に対する主体的・創造的な態度を育成するという観点から、この時間のねらいの実現を目指す「総合的な学習の時間モデル事業」への取組は、本県の総合的な学習の時間の充実のみならず、これからの新しい教育を推進していく上で、大きな方向性を示すものであり、この事業への取組を通して、これまでの本県の「総合的な学習の時間」の在り方について、評価、修正・改善、実践、充実に向けた、大きな糧としていきたい。

2. 県における「総合的な学習の時間」の問題点とその背景（近因、遠因）

○ 各学校ごとの「総合的な学習の時間」の問題点と背景

- 「総合的な学習の時間」の趣旨やねらいについては、各学校において、その周知を図るための研修が行われてきているが、趣旨やねらいが実際の授業にどのように具現化されているかについては、授業レベルでの実践研究を重ねる必要がある。
- 各学校における「総合的な学習の時間」としての目標や育みたい力、教科との関連や評価計画などを体系的に示すべき全体計画については、十分練られたものであるとは言い難い。今後の見直しが求められる。

- ・ 多くの学校においては、課題を発見する力や課題を追究する力の育成に重点を置いているものの、授業段階における具体的な指導・支援の在り方については、今後、さらに研究を積み重ねる必要がある。
- ・ 一部の学校においては、この時間が体験活動にとどまり、学習活動として成立していない状況も見られ、この時間における適切な学習内容についての実践研究が重要になると考える。

○ 学校間連携という観点での「総合的な学習の時間」の問題点と背景

- ・ この時間のねらいや育みたい力、学習活動・学習内容等について、相互の情報交換が十分でないため、学習内容の重複があったり、校種が異なるにも関わらず、学習内容や取組み方に違いが見られなかったりするなどの状況もある。
- ・ 全体計画において、学年間に加え、校種間の系統性が十分押さえられていないため、単発的な学習に止まってしまいがちになる。

○ 地域の教育力の活用という観点での「総合的な学習の時間」の問題点と背景

- ・ 身近な自然、人、文化等、多くの地域素材があるものの、児童生徒がそれらと様々なかかわりをもつ体験の機会も少なくなってきたり、自分とのかかわりが希薄なため、上辺だけの学習に止まってしまう傾向がある。
- ・ 外部人材の活用にあたっては、各学校が関係機関に問い合わせたり、自校の人材バンクを活用したりするなど、単独での対応が多い。地域の教育力の活用については、情報を共有化するなどの連携により、効率化を図る必要がある。
- ・ 外部人材を活用する際、どのような観点で、どのようなかかわり方を求めているのかを明らかにされないまま依頼するケースが見られる。学校と外部人材との事前の連絡・調整等を綿密に行い、十分に共通理解を図る必要がある。
- ・ 地域素材の共有化が図られていないため、各学校が同様の手順で教材化を進めようとする場合があり、効率的な活用のためのシステムを確立させる必要がある。

Ⅲ. 平成15年度の実践研究の概要

1. 各県の抱える問題点(Ⅱ-2)を踏まえて定めた、推進地域全体としての研究の計画・見通し等

○ 2年間を通じた研究の計画・見通し

① 解決すべき課題

- ・ 総合的な学習の時間の趣旨やねらいが実際の授業レベルでいかに具現化されているか。
- ・ 小・中・高を見通した、児童生徒に育みたい力の系統化とそれらがどのように身に付いてきているかについての評価の在り方。
- ・ 地域素材の教材化とその共有・活用の在り方。

② そのための具体的な取組・方策

- ・ 各学校のこれまでの取組について、年間指導計画の在り方、児童生徒の課題設定や問題解決的な学習を展開する際の教師の支援の在り方、評価の在り方、地域教材の再発掘等の観点から見直しを行い、推進地域としての「総合的な学習の時間」の目標や系統表等を示した全体計画の再構成。
- ・ 校種間の関連を図り、モデル地域としての、児童生徒に身に付けさせたい共通の力を設定。
- ・ 各学校における全体計画とモデル地域における全体計画の作成及びそれぞれの関連性・整合性の構築（ブリッジ）。
- ・ 各学校及びモデル地域合同での授業研究を通じた、問題解決的な学習の展開や教師の適切な指導及び評価の在り方に係る研究。
- ・ 地域の教育力を生かした教材開発と各校種の発達段階に応じた教材活用の在り方に係る研究。
- ・ 新たな地域の学習素材の開発と、人材バンクの整備充実を図るとともに、効果的・効率的な地域教材活用の共有化。

③ その取組の時期等

- ・ 1年次…本事業推進に係る研究計画の立案及び研究体制の確立。
 - …各学校におけるこれまでの総合的な学習の時間への取組の見直しと全体計画の作成又は再構成。
 - …育みたい力や学習の発展性、評価、地域教材の開発など、校種間の連携を図ったモデル地域としての研究への取組。
- ・ 2年次…モデル地域及び各学校の理論に基づく実践研究。
 - …実践研究を通じた事業評価。
 - …研究報告書（冊子・HP）の作成・配布（配信）による研究成果の普及。

○ モデル事業としての取組の評価の観点と検証の方法

- ① 総合的な学習の時間のねらいや趣旨の達成状況
 - ・ 児童生徒、教員、保護者によるアンケート調査により達成状況を把握。
- ② 総合的な学習の時間を通して育みたい力
 - ・ 児童生徒、教員、保護者によるアンケート調査により達成状況を把握。
- ③ 総合的な学習の時間における指導の工夫改善
 - ・ 児童生徒、教員によるアンケート調査により達成状況を把握。
- ④ 地域の教育力の教材化・共有化・活用状況
 - ・ 教材バンクや人材バンク等の整理・編集による取組状況の把握。
- ⑤ 事業全体に対する評価
 - ・ 本県の学力向上に向けた総合的施策を推進するために設置されている「学力向上プロジェクト委員会」による事業評価及び助言。

2. 本事業の推進体制

(別紙)を参照のこと

3. 平成15年度の実践研究に対する指導と成果の普及

(1) モデル地域に対して行った指導

○ 指導事項

- ① 事業参加申請時における、「総合的な学習の時間」モデル事業の事業説明
 - ・ 事業の趣旨、研究内容、実施計画書及び経費積算の作成要領等。
- ② 第1回連絡協議会及びモデル地域実践研究部会における指導
 - ・ 全体に対する事業の趣旨、研究内容、モデル地域及び各学校の研究計画に対する助言等。
- ③ 文部科学省推進地域訪問時における担当教科調査官等から受けた指導内容の確認
- ④ 学習指導要領の一部改正における、総合的な学習の時間の充実に向けた内容に係る事項等の解説
- ⑤ 第2回連絡協議会及びモデル地域実践研究部会における指導
 - ・ 総合的な学習の時間研究協議会及び総合的な学習の時間モデル事業打合せにおける指導事項の復伝及び指導を受けてのモデル地域としての今後の研究の進め方について。

○ 指導の方策・方法

- ・ 年2回の連絡協議会及びモデル地域実践研究部会における所管説明及び指導助言。
- ・ 文部科学省推進地域訪問及び総合的な学習の時間研究協議会、総合的な学習の時間モデル事業打合せの復伝については、口頭説明及び紙媒体による資料の配布による指導。

○ 指導後の状況把握の取組など

- ・ 指導助言事項の伝達の後、次回の連絡協議会等において、事後の取組状況を把握。
- ・ 実施報告書等において取組状況を把握。
- ・ 学校訪問において、取組状況を把握。

(2) 地域の取組の成果普及のための活動について

○ 「総合的な学習の時間」モデル事業連絡協議会の開催

- ・ 平成15年8月、平成16年2月に、モデル地域内において協議会を開催。

- 山口県高等学校教育課程研究協議会における発表
 - ・ 全体会において、本事業への取組についての事例発表。
- HPの作成
 - ・ モデル地域の情報センターである、菊川町立檜崎小学校のHP上に、モデル事業のHPを開設。
- 報道機関への情報提供
 - ・ テレビ・新聞等の各マスコミに対して、モデル地域の取組の概要を情報提供。
- 公開授業の開催
 - ・ 各学校における公開授業の予定をHP上で紹介。

4. 平成15年度の成果及び課題

- 成 果
 - ・ 各学校において、総合的な学習の時間のねらいを踏まえた学習の時間になっていたか。各自の学習に必然性のある直接体験になっていたか。問題解決に向けた学習が展開されていたか。教科等との関連を意識した学習であったか。指導と評価が適切になされていたか、等について検討する観点を明確にもち、この時間の学習の充実を図ろうとする意識が高まった。
 - ・ 各学校独自の総合的な学習の時間として捉えるのではなく、モデル地域として育てたい力を明確にするなど、小学校間及び異校種間の連携が図られ、地域としてどのような児童生徒を育てようとしているか、各学校では、どのような学習を展開すればよいか等について、共同研究が展開されてきている。
 - ・ モデル地域としての研究が推進されるにつれて、異校種間連携が活発になり、児童生徒同士の交流が活発になるとともに、合同授業研究を行うなど、総合的な学習の時間の充実に向けた教職員間の連帯意識が高まってきた。
 - ・ 町全体での取組により、地域住民のこの時間への理解が得られつつあるとともに、この時間を通して成長する児童生徒への期待感が寄せられつつある。
- 課 題
 - ・ 総合的な学習の時間における異校種間連携について、菊川町としてのよりよい連携の在り方を模索するだけでなく、他の地域にも生かせる視点について明確にすること。
 - ・ モデル地域としての育みたい力が、各学校及び一人一人の児童生徒に具現化されるための、本研究における【ブリッジ】について吟味の上、段階を押さえた理論付けを行うこと。
 - ・ 総合的な学習の時間における評価について、評価の観点を明確にし、個の学びの評価の在り方（見取り方）及び評価を生かした指導の在り方について、さらに明確に示すこと。
 - ・ 研究の進捗状況及び成果を幅広く普及するための具体的な場の確保。

IV. 平成16年度の実践研究の概要

- 平成15年度の成果及び課題を踏まえて、
 - ① 16年度特に取り組みたい課題
 - ア 評価を生かした指導・支援の在り方について、授業研究を通して明らかにしていく。
 - イ 研究の進捗状況及び研究成果の普及を積極的に行う。
 - ② そのための具体的な取組・方策
 - ア 年2回の連絡協議会及びモデル地域実践研究部会における研究の進捗状況の把握と指導助言に加えて、各学校での校内研修において、具体的な場面を捉えて、指導助言に当たる。
 - イ 事業全体の研究成果を紹介する場としての発表会だけでなく、普段の校内研修や連絡協議会も公開することで、研究のプロセスの周知にも努め、本事業への取組の成果を幅広く普及していきたい。
 - ③ その取組等の時期
 - ・ 授業研究等への参加については、来年度の研究の方向性が明らかになる段階での学校訪問を計画したい。
 - ・ 年2回開催する連絡協議会等については、本年度並みに年度初めと年度末近くの開催を計画し、モデル地域での研究への取組み方が他地域に参考となるよう考慮したい。
- そのために、特にモデル地域に対し指導すべき事項
 - ① 指導事項
 - ・ 「総合的な学習の時間」の評価についての共通理解と再確認
 - ・ 学習活動及び指導の目標や内容に基づいた評価の観点の設定と各校種間の系統性の検討。
 - ・ 評価の内容・方法と個に応じた指導の在り方。
 - ・ 成果の普及方法についての助言等。
 - ② 指導の方策・方法など
 - ・ 児童生徒の学びの見取り方の具体と評価方法及び指導に生かす具体についての指導助言。
 - ・ 先進的な取組事例の紹介。
 - ・ 校内研修会における指導助言。

(別紙) 山口県「総合的な学習の時間」モデル事業研究推進体制

